

リンドウ害虫・アカスジキイロハマキの発生生態

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

- 1 部門名
花き - リンドウ - 病害虫発生、病害虫防除
- 2 担当者
三田村敏正・荒川昭弘
- 3 要旨

近年、会津地方のリンドウで発生しているアカスジキイロハマキ(成虫の前翅長約8mm)の発生生態を調査した。

- (1) 現地のリンドウほ場における幼虫被害(図1-B, C)発生状況(表1)と飼育経過(図2)から年3化と考えられる。
- (2) 卵はリンドウの葉の表面に産卵され、1齢幼虫は葉に潜って食害する(図1-A, B)。
- (3) 2齢以降は新芽とその周辺を綴り食害する(図1-C, D)。
- (4) 越冬は幼虫態で枯葉の中で行われると考えられる(図1-E)
- (5) 越冬幼虫に対する耕種的防除として、リンドウ栽培終了後、茎葉などを放置しないことと、本種はクローバーやヨモギも食害することから、雑草管理を徹底することで翌年の発生を軽減できると考えられる。

表1 リンドウほ場におけるアカスジキイロハマキの発生状況

時 期	発 生 状 況
5月中旬	幼虫、被害確認(北塩原村北山)
5月下旬	幼虫、被害確認(下郷町)
6月上旬	幼虫、蛹、成虫確認(北塩原村北山)
7月上旬	幼虫、被害確認(北塩原村北山)
7月下旬	蛹、成虫確認(北塩原村北山)

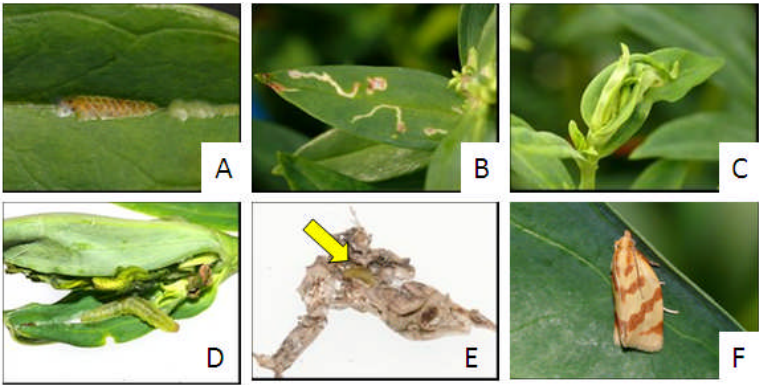
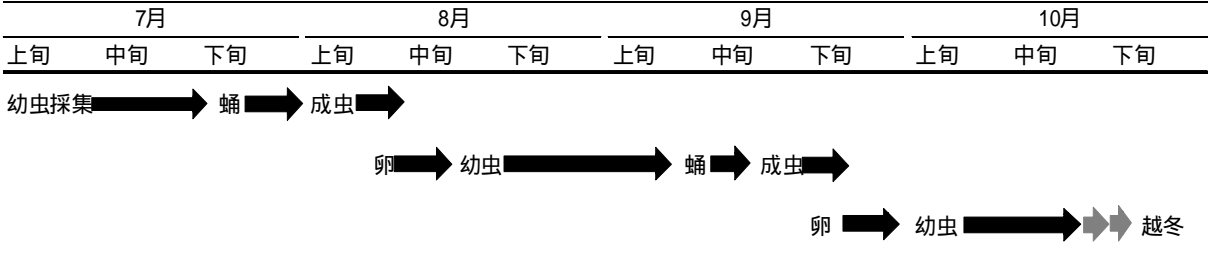


図1 アカスジキイロハマキの各ステージと被害

A: 葉の表面に産卵された卵, B: 1 齢幼虫の食痕, C: 新芽を綴った幼虫の巣, D: 終齢幼虫, E: 枯葉の中の越冬幼虫(矢印), F: 成虫

図2 アカスジキイロハマキの飼育経過



飼育は直径15cmのプラスチックシャーレーで行い、無加温の室内で行った。
卵は羽化した成虫を1mm目の種籾ネットで覆った鉢植えのリンドウに10頭ずつ放して産卵させたものを用いた。

- 4 成果を得た課題名
 - (1) 研究期間 平成23年度～26年度
 - (2) 研究課題名 新奇・難防除病害虫の効率的防除技術の開発
 - (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)
- 5 主な参考文献・資料
 - (1) 平成24年度センター試験成績概要